地域・駅・新幹線ニュースレター

はっしん！ 新青森

青森県立青森西高等学校 Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School × 青森大学 AOMORI UNIVERSITY

2022年8月20日（土）
第34号 【FREE】
青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR東日本新青森駅
青森大学社会連携センター

北海道・北東北の縄文遺跡群

世界遺産登録1周年

記念フォーラム 将来像探る

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は2022年7月、世界遺産登録から1周年を迎え、各地で記念の催しが開催されました。青森市の特別史跡・三内丸山遺跡では「青森フォーラム」が開かれ、岡田康博・三内丸山遺跡センター所長が講演、県内の各遺跡の担当者や関係者が意見交換しました。

三内丸山遺跡は縄文遺跡群の中心的な遺跡で、今年が本格調査開始から30周年に当たります。岡田所長は調査開始当時、発掘担当者を務め、2005年に青森県が世界遺産登録推進を表明した時から構想に関わっていました。

講演で岡田所長は、青森県の遺跡群から4道県の遺跡群へ枠組みを拡大した背景、国内外の出来事にほんろうされてきた経緯、多くの人の支援や助言で一歩一歩、実現に近づいてきた足跡を振り返り、「多くの人が遺跡を訪れるようになり、世界遺産登録の効果を実感している」と強調しました。

ポイントとして「登録されたのが日本の縄文文化ではなく、あくまでも『北海道・北東北の縄文遺跡群』であること」を挙げ、一部に誤解が存在すると警鐘を鳴らしました。また、今後は発掘調査に力を入れ、成果を発信していくことが重要だと指摘しました。

意見交換では、世界遺産の構成資産である県内8遺跡をめぐり、市町の担当者や応援活動に携わる民間団体の関係者が、遺跡の活用や地元のPR方法をめぐって熱心に発言していました。

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく㉞

長万部高校生が再訪　新青森駅一帯を視察

北海道長万部高校の生徒4人が7月25日、青森市を訪れ、青森県立青森西高等学校の「青西おもてなし隊」隊員7人とともに、新青森駅と周辺を探訪しました。

◇　◇　◇

長万部町は北海道の渡島地方の北端に位置します。2031年春に札幌延伸を迎える北海道新幹線の駅が新設され、新幹線と在来線の乗換駅となります。

長万部高校生は2021年度、町の事業として新駅のデザインコンセプトの検討作業に携わりました。同年7月には、乗換駅として先輩に当たる新青森駅のほか、三内丸山遺跡などを訪問し、青西おもてなし隊の歓迎を受けました。今年は、新しい長万部駅で観光客や利用者の拠点となる「滞留空間」の検討を進めています。

生徒たちは濵田哲也校長、長万部町の新幹線担当者らと新青森駅に到着し、青西おもてなし隊員の出迎えを受けました。そして、櫛引素夫・青森大学社会学部教授の案内で駅構内と周辺を見学し、三内丸山遺跡を保護するために線路がカーブしていること、駅前に函館市とつながりのある病院が建ち、医療に重要な役割を果たしていること、駅が「石江遺跡群」の上に建っていることなどを学びました。

昨年に続いて来訪した長万部高校2年の佐藤玲花さんは「こぎん刺しやミニねぶた、新幹線とコラボした金魚ねぶたなど、駅の内部が青森の特色であふれていた。長万部駅にも地元の特色を活かした飾り付けができたらいいな」と感想を語りました。

また、青西おもてなし隊との会話をめぐり「滞留空間を造るに当たって、生徒に居心地の良い空間、例えばイートインスペースや学習スペースがあってもいいと思いました」と振り返りました。

青森西高校3年の大中悠菜さんは「他校との交流は初めてで緊張しつつも楽しい時間になりました。普段、何気なく使っている新青森駅の魅力など、新しい発見に驚く場面がありました」と話していました。

この後、長万部高校生たちは八戸市の中心市街地でも、滞留空間を持つ施設の様子などを視察しました。

8月の大雨被害お見舞い申し上げます

8月の大雨で青森県の各地とJR奥羽線、津軽線、五能線に大きな被害が出ました。お見舞い申し上げます。

©2022　MOTOO KUSHIBIKI　　＜ご自由にお持ち帰り下さい＞　　ポスター等は許諾を得て使用しています

青森県立美術館「特別な日常服」の世界

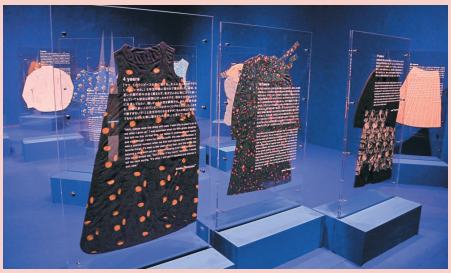
企画展「ミナ ペルホネン／皆川明　つづく」

デザイナー・皆川明の世界を紹介する企画展「ミナ ペルホネン／皆川明　つづく」が 10 月 2 日（日）まで、青森県立美術館で開かれています。デザインから製造工程、日常生活での使用、さらに子や孫にも伝えられる衣服や日用品のありようを見渡した展示を通じて、「大切に生きること」の意味を考えさせられます。

「ミナ ペルホネン」は、前身となるブランド「ミナ」が 1995 年に誕生しました。「特別な日常服」をコンセプトに衣服を作り続ける一方、家具・インテリア、食器などに領域を広げてきました。

会場では、創作された数多くの品々に加え、デザイン原画やインタビュー映像、愛用者の日常生活を描いた映像などが展示され、作品世界の背景やデザイナーのまなざしが感じ取れます。

圧巻は「森」と題された、約 340 着の衣服が並ぶ部屋（写真右上）です。長く繰り返し愛用される服を－という願いを象徴するように、ブランドの設立当初からの衣服が壁いっぱいに展示され、身近な人に似合う服を探してみたくなります。



代表的な刺しゅう柄「tambourine（タンバリン）」のコーナー（写真左）では、デザインが生地から衣服、バッグ、食器、いすなどに展開されていくつながりを確かめることができます。

特に印象的なのは、「洋服と記憶」の展示です（写真中）。15 人の愛用者やその家族が、その洋服と共にある思い出や記憶をつづっています。

入場料は一般 1,500 円、高校生・大学生 1,000 円、小中学生は無料です。詳しくは同展特設サイト（2 次元コード）へ。

世界遺産登録 1 周年特別展「北海道・北東北の JOMON」三内丸山遺跡

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録 1 周年を記念し、特別展「北海道・北東北の JOMON」が 10 月 2 日（日）まで、三内丸山遺跡センターで開かれています。世界遺産の「構成資産」をはじめとする各地の遺跡から出土した土器、石器、骨角器など約 200 点が展示され、地域ごとに特色を持ちつつ一つの文化圏を構成していた縄文世界を体感できます。

会場入り口では、三内丸山遺跡で出土した端正な深鉢形の土器（縄文時代中期）が出迎えてくれます（写真①）。

④

①

②

③

展示は大平山元遺跡（青森県外ヶ浜町・縄文時代草創期）から出土した日本最古の無文土器に始まり、独特の曲線がモダンな印象を与える早期の物見台式土器、前期の円筒下層式土器、中期の円筒上層式土器などが並びます。

後期の「赤彩切断壺形土器」（青森県六ヶ所村・大石平遺跡、写真②）は、その色や特徴、出土状況から、墓の副葬品などを収めていた可能性があると言います。北海道八雲町のコタン温泉遺跡では貝塚から、やはり後期の、クジラの骨でできた櫛（写真③）などが見つかりました。

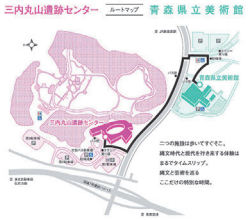
縄文時代の最後を飾る晩期の土器は、流麗な文様が施された函館市・女名沢遺跡出土の壺形土器（写真④奥）、同市・日の浜遺跡出土の鉢形土器（写真④手前）などが目を引きます。

観覧料は一般 900 円、高校・大学生 450 円、中学生以下は無料で、特別展の観覧料金で常設展も見ることができます。

三内丸山遺跡センター

見学時間　9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）
（6月1日～9月30日は18:00まで）
休館日　毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料　一般 410円（330円）／高校・大学生等 200円（160円）／中学生以下 無料
※（　）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット呈示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ
〒038-0031 青森市三内字丸山305
TEL.017-766-8282 ／ FAX.017-766-2365
URL https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp



青森県立美術館

開館時間　9:30～17:00（入場は16:30まで）
休館日　毎月第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）
※企画展開催時、展示替等により変更する場合あり。
観覧料　一般 510円（410円）／高校・大学生 300円（240円）／小学生・中学生100円（80円）
※（　）内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット呈示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ
〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 ／ FAX.017-783-5244
URL https://www.aomori-museum.jp

新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約 20 分･300 円、タクシー（南口）約 10 分･1,000 円前後、徒歩約 30 分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約 11 分･300 円、タクシー（南口）約 10 分･1,300 円前後、徒歩約 40 分

Facebook ページ Instagram アカウント

＜ネット情報＞
Facebook ページと Instagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943　青森市幸畑 2-3-1　青森大学社会学部
櫛引素夫　電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp

FB ページ　Instagram　青森大学社会連携センター

©2022　MOTOO KUSHIBIKI
＜ご自由にお持ち帰り下さい＞
ポスター等は許諾を得て使用しています